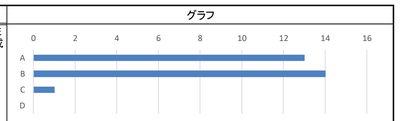
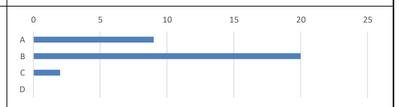
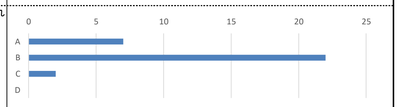
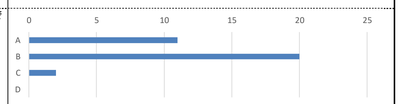
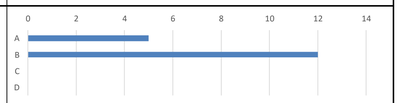
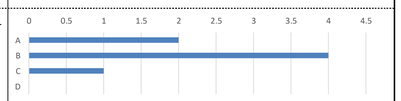
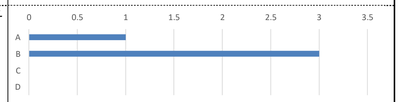
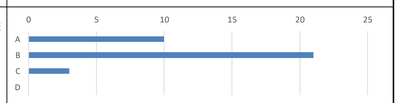
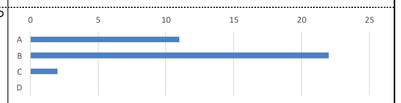
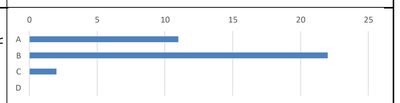
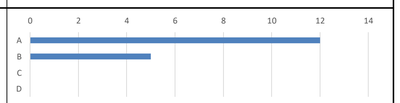
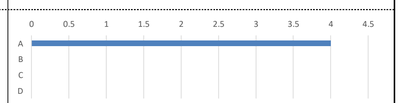
令和2(2020)年度　学校評価総括表　　伊丹市立伊丹特別支援学校

教育目標	一人ひとりの自立と社会参加をめざし、たくましく生きる力を育てる
重点目標	①新学習指導要領の小学部本格実施を迎え、累計を意識したカリキュラムマネジメントを進める。②卒業後の進路や生活を見据え、肢体不自由特別支援学校としての取組の充実と地域への発信の強化　③安全で安心な学校づくり　④一歩進んだセンター的機能の充実　⑤校務分掌の見直しを図り、教職員が目標を共有し、学部・学年間や各分掌の連携でチーム力を高め、学校課題にタイムリーに対応できる体制づくり。

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	総得点 総合評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	一人ひとりの教育的ニーズに応じた弾力的な教育課程の編成 （教育課程）	（教育課程） ○個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用し、一人ひとりに応じた指導・支援の充実を図る。	○個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、懇談で指導・支援の方向性について保護者と共有する。	○「本人・保護者の願い」を踏まえて、指導・支援の方向性について保護者に説明したり、話し合ったりして、合意形成を図ることができる。	123/140 A（88%）	・個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、懇談等で指導・支援について共有することが概ねできた。	・児童・生徒の指導支援の充実に向けて、今後も個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、保護者と共有していきたい。	・児童・生徒の教育支援計画・個別の指導計画などは、保護者にとっても学校での子どもの実態を知るものである。今後も引き続き保護者と共有を進めてほしい。 ・卒業後、いろいろな事業所から必要な支援を聞かれる。サポートファイルが紙媒体とデータがあれば安心できる、。法人ではデータ化している。
	わかる授業の構築 （自立活動） （研究）	（自立活動） ○相談を活用し、学部・学校全体で情報を共有して授業にいかす。	○相談内容を明確にするため、相談カテゴリを設け、相談票の書き方や過去の相談内容を参照できるようにする。 ○クラスや学部等において助言内容を確認後、学校全体で回覧して情報を共有する。	○各種相談を活用できる。 ○他児の相談内容を教育活動にいかす。	129/155 A（83%）	・クラスの児童については情報共有をしながら取り組むことができた。相談日に登校できない児童生徒が相談しにくいことがあった。 ・回覧して情報共有することができた。相談票がまとめて回ることがあった。	・登校できないときはビデオを使っての相談も可能であることを周知する。 ・紙媒体での回覧からデータの閲覧に変える。相談済みの記録をフォルダに保存し、職朝くんを活用して閲覧を呼びかける。	・相談のやり方や相談後の情報の共有化について、今後の改善も見られるとということで、これからの活性化を目指してほしい。
		（研究） 「わかる・できる集団の授業づくり」をテーマに、全教員が主体的に研究に取り組み、授業作りに努める。	○各学部の研究推進担当が中心になって学部やクラスの実態に応じて、研究の目的と方法を明確にして研究授業や公開授業を実施する。 ○それぞれの教員が研究授業や公開授業を通して、学んだことを活かして授業改善をする。	○研究授業や公開授業の取組を通して、学んだことをそれぞれの授業の授業改善に活かす。	127/155 A（82%）	・研究授業で授業コミュニケーションシート（ポイントーク）を用いて授業改善を行った。 ・公開授業を予定通り実施できた。課題として、授業の動画をデータフォルダで見られるようして業務軽減を今後図りたい。 ・大学教員と授業改善のミーティングをオンラインで持った。	・より公開授業の動画が見やすくなるよう、DVD方式から、職員共有フォルダを用いた情報共有のルールに変更していく。	・コミュニケーションシートは端的でわかりやすい表現を使用し、身近に感じることができた。また、イラストでの表現であるなど工夫が見られる。活用して授業改善に生かしてほしい。 ・業務軽減の視点も取り入れて考えていることは良い取り組みである。引き続きアイデアを出しながら取り組んでいき、いろいろな部署にも広めてほしい。
	卒業後の進路や生活を見据え自立して社会に参加する力の育成 （キャリア教育） （進路）	（キャリア教育） ○児童生徒の発達段階や発達課題を踏まえたキャリア教育の推進・充実を図る。	○キャリア教育全体計画を踏まえて、キャリア教育の視点から教育活動を展開する。	○キャリア教育全体計画の「キャリア教育で児童生徒に身に付けさせたい力」を踏まえて、授業の年間指導計画を作成できる。	128/155 A（83%）	・キャリア教育全体計画を活用する機会を具体的に設定することで、指導・支援を検討する際にキャリア教育の視点を意識することが概ねできた。	・指導・支援においてキャリア教育の視点を定着できるよう、今後も継続してキャリア教育を意識できる機会を設定していきたい。	・事業所体験など、キャリア教育につながる取り組みを引き続き実践してほしい。教育から事業所（進路先）への引き継ぎを丁寧に行ってほしい。
		（進路） ○児童生徒の適正や希望等を把握し、実態に応じた進路指導・支援を行うための情報について理解する。	○進路説明会で行う資料やガイドブック等を配付し、進路指導や福祉制度に関する情報提供を行う。 ○進路だよりを毎月発行し、情報を発信する。	○児童生徒の個々の実態を把握し、適切な進路指導ができるように福祉制度について理解する。 ○児童生徒が通う福祉事業所の活動について把握する。	139/165 A（84%）	・今年度版としてガイドブックを改訂し、全教員や保護者、各事業所への配布を実施した。学校としての情報を事業所に伝えたり、事業所の情報を各家庭に知らせることができたのではないかと感じる。ただ、コロナ禍で思うように事業所への訪問ができず、特定地域のみの情報となってしまった点は来年度への課題である。	・進路＝卒業後の選択だけでなく、各カテゴリーに応じた進路の情報を伝達していく。今年度コロナ禍でできなかったこと（説明会関係）も多く、来年度はその点を実施できればと考えている。さらに、適切な情報を提供できるように事業所訪問も継続して行う。	・ガイドブックの改訂で新しい情報が各家庭に伝わったのではないか。事業所の情報が学校から発信されることは学校の信頼にもつながる。トライアングルプロジェクトも進む中、より一層の事業所との連携を求める。
豊かな心・健やかな体	豊かな人間関係の形成 （各学部） （いじめ）	（小学部） ○日々の授業を通して児童の人間関係づくりの基礎を学ばせる。	○学部全体やクラスを超えた学習集団等を適切に編成する。	○それぞれの集団学習の中で、児童が他者と関わる力をつけられるような内容や場面を設定する。	73/85 A（86%）	・全ての学部教員がAまたはBと評価し、児童に人間関係づくりの基礎を学ばせることができた。年間を通して道徳や各教科を他クラスとの合同授業を計画、実施した。また、実態の近い異年齢の児童同士でグループ学習を計画、実施した。その結果、クラスを超えた関係が築かれたと考えられる。	・今後も、学部全体で行う授業や他クラスとの合同授業、縦割りのグループ学習を、年間を通して計画、実施する。	・他学年とのつながりを持つことは良いことである。これからももっとやってほしい。
		（中学部） ○人とのふれ合いを通し、コミュニケーションの力や相手を思いやる心を育てる。	○校区交流や社会体験学習、日々の授業や学校行事の中で、多くの人と関わり合いを広げる。	○学校の内外の多くの人と関わる機会を設け、生徒自身がコミュニケーション力を発揮し、相手とつながる体験をする。	28/35 A(80%)	・学校外に出る機会は、新型コロナウイルス感染症の影響により設定できなかったが、外部講師を招いたり、ZOOMを使用してオンラインで外部の人と関わる機会を設けたり、学習集団を工夫したりと、学校の内外の人と関わる機会を設定できた。	・生徒自身がコミュニケーションできる機会を今後も設定していく。	・今年度は新型コロナ感染症の影響を大きく受けているので外部へ出たり、外部機関の人とつながったりが難しかったと思う。その中でZoomを使用して外部の人と関わる機会が持てたことは、今後人とのつながりに広がりが出る。生徒もいつもと違ったコミュニケーション方法を利用することで学ぶことも多いと思う。 ・2ヶ月休校で、一般校でも厳しい。保護者が2人とも働いている人の子どもがダメージを受けている。学校に保護者がいけないのは厳しかった。 ・オンラインで家庭と学校がつながっているのは心強い。今後も家庭との連携をはかってほしい。
		（高等部） ○人や社会と関わる中で、思いやりの心や責任感を育てる。	○日々の学習や校外学習、職場体験実習などの活動で、多くの人と関わりを持つ。	○校内外問わず、多くの人と関わり、自分の気持ちや考えを発信し、他者の考えを知る機会を多く設ける。	17/20 A（85%）	・コロナ禍で、実施できない学習（校外学習や職場体験実習など）があった。	・校内で実施できる学習を工夫する。（オンラインなど）	
	安心・安全な学校生活の推進 （校内保健） （医療的ケア） （危機管理）	（校内保健・医療的ケア） ○児童生徒の実態に応じて、健康の保持・増進をはかると共に命を大切にする心を育てる。	（校内保健） ○個々の状況に応じた配慮及び行事に係る健康管理を行う。 ○児童生徒の健康に関する情報の共有方法を検討し、全職員で共通理解を図る。 （医療的ケア） ○医療的ケア安全委員会の会議内容を職員会議や回覧などで連絡する。	（校内保健） ○校内における児童生徒の健康に関する情報共有、学校と医療の連携を図ることができる。 （医療的ケア） ○疑問点を確認することができる。	140/170 A（82%）	（校内保健） ・前の担任や保護者と児童の体の引き継ぎを行ったが、体調の保持を図ることが難しかった。 （医療的ケア） ・児童生徒が医ケアの対象ではない場合、保護者に渡す書類や医ケアについて、詳しく把握することは難しく感じられた。	（校内保健）・児童生徒の体調の変化等について、様々な部署と連携して情報共有等図っていきたい。 ・次年度に向けて様式の改訂を行い、今年度末に行われる保護者説明会にて説明を行う。これにより、保護者も教員もより分かりやすく文書整理等行えるようにしている。 （医療的ケア） ・保護者用のしおりや教師用のしおりなどあれば見やすく。何ができて何ができないのかわかり、看護師にお願いすることができ、保護者にも説明しやすくなると思う。	・休校という危機管理的な場合に、保護者の責任だけでなくどういうケアができるかということを学校だけでなく、他機関とも連携して考えていく必要がある。 ・医療的ケア児に関してはどうしても書類が多くなり煩雑になってしまう。保護者用のしおりや教師のしおりは便利であり、何かの時に安心できるので是非お願いしたい。
		（危機管理） ○危機管理マニュアルを作成したり、各種訓練を行ったりして、生命や心身等に危害をもたらす事象を最小限に食い止めるための力を育てる。	○様々な災害に対する防災教育を実施する。 ○集団での訓練を通して生命の安全について考える。 ○非常事態発生時の安全を確保する。	○様々な防災教育を通して自他の生命や心身の安全について考え、行動することができる。 ○非常事態発生時の行動を知り、活動することができる。	147/175 A（84%）	・新型コロナウイルス感染症の影響により、各種訓練が机上訓練や簡素化されたものとなった。児童生徒の学びや、教職員の危機管理能力の育成に繋げられるように考える必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の学校としての基準や対応について検討することが重要である。	・次年度は、児童生徒参加の訓練や教職員の研修について、より体験的に、より日常生活に即した学習を実践していく。 ・伊丹市のガイドラインの動向を常に勘案しながら、学校全体として組織的に対応していく。	
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信 （ICT活用推進） （各学部）	（ICT活用推進） ○校内のICT機器やその活用方法、授業での取り組みについての情報を発信する。	○ICT便りの発行や懇談等で、ICT機器やその活用方法について教師や保護者に情報を発信する。 ○各学部からICTを活用した授業の実践例を募り、その一部をICT便りやホームページ等で発信する。	○校内研修やICT便りを読むことで、校内のICT機器の活用方法について知る。 ○ICT機器を活用した授業を実践したり、実践例を見ることで、ICT機器についての理解を深める。	147/175 A（84%）	・オンライン授業を行ったことで、iPadやモニターなどICT機器の利用率は上がった。また、昨年から進めたPC室の整理によりVOCAなど使用率は引き続き高い水準だった。しかし、スイッチに関してはまだ利用率は低い。またICT機器についての知識などがなく、実際にもっと使って使えるようになりたいとは思っているがなかなか実行が伴わないと感じている職員もいる。ICT便りや校内研修を通して使用の仕方・実践例を伝えていく。	・今年度ICT機器の導入が進み、児童生徒それぞれが使える環境が整いつつあるので、機器の使用方法、使用事例などを校内研修などで紹介する必要がある。また、ICT通信は定期的に発行して、ICT機器の利用を促進していきたい。	・新型コロナの影響で、ICT危機が急速に学校現場に取り入れられたと思う。今後はその活用について研修なりが必要になってくる。せっかくの危機が教育に活かせるよう、研修に励んでほしい。 ・通信発行はきっかけ作りにも良い案である。今後も続けてほしい。
		（小学部） ○積極的に授業の取り組みや児童の様子を家庭に伝える。	○毎日連絡帳でそれぞれの児童の様子を伝える。 ○毎月学部通信を発行し、学部の児童の様子を伝える。	○毎日連絡帳に授業や児童の様子を記入する。 ○月1回、学部全体の児童の様子を載せた学部通信を発行する。	80/85 A（94%）	・全ての学部教員がAまたはBと評価し、授業の取り組みや児童の様子を家庭に伝えることができた。毎日の連絡帳では授業時間毎の児童の様子を記載して細かに伝え、毎月の学部通信では授業中などの児童の写真を掲載するなど、視覚的にも児童の様子がわかるように工夫した。	・今後も連絡帳や学部通信で、児童の様子を細かに伝えていく。	・ホームページは詳しくなくてとも良いので、タイムリーに出した方が良い。それを見ながら家族で話ができる。詳しい内容については後日でよい。 ・園ではホームページに保護者だけにパスワードを教え、写真を公開している。個人情報の問題があるがパスワードがかけられているので、タイムリーに写真を見ることができる。 ・iPadに写真や動画を入れて、連絡帳代わりに使うのはどうか。子どもたちの学校での様子がわかり、保護者も安心する。
		（中学部） ○積極的に学校からの情報を発信し、家庭に開かれた学校を目指す	○校内の掲示板、日々の連絡帳や毎月発行の学部通信を通して、学校における学習内容等について、家庭に伝達し、共有する。	○掲示板では、中学部全体の教育活動について発信する。連絡帳や学部通信では、各生徒の学習について、より具体的な内容の伝達をする。	31/35 A（89%）	・掲示板や連絡帳、学部通信、ホームページを通して中学部の教育活動について、発信した。	・今後も、様々な手段を通して、教育活動について発信し、家庭と共有していく。	
		（高等部） ○積極的に授業の取り組み等を発信し、開かれた学校を目指す。	○毎日連絡帳でそれぞれの生徒の様子を伝える。 ○毎月学部通信を発行し、ホームページも更新して学部の情報を発信する。	○毎日連絡帳に授業の様子等を記入する。 ○月1回生徒の様子を載せた学部通信の発行とホームページの更新を行う。	20/20 A（100%）	・目標の通りに実施することができた。	・継続して実施していく。	
	一歩進んだセンター的機能の充実 （センター）	（センター） ○校内教育支援委員会の運営及び、人材の育成につとめる。 ○特別支援教育における地域のセンター的機能の充実を図り、教育相談、巡回相談、学校園等コンサルテーションなど、各事業を円滑に実施する。	○要請のあった授業への支援や研究等に参加する。 ○校内教育支援委員会の運営をする。 ○要請のあった学校園の支援体制に応じて段階的に学校園コンサルテーションを実施する。 ○特別支援教育実践講座の実施（7講座）運営をする。 ○伊丹市の巡回相談員として要請に応じて	○要請のあった授業への支援や研究等に参加し、適切な対応をする。 ○校内教育支援委員会を適切に開催し進める。 ○要請のあった学校園の支援体制に応じて段階的に学校園コンサルテーションを実施する。 ○特別支援教育実践講座を新型コロナ感染対策を講じながら実施（7講座）する。	8/10 A（80%）	・要請のあった授業や研究会には時間が合えば参加し、児童生徒や授業内容等の課題について一緒に考えることができた。 ・担任と相談して開催時期を決め協議し適切に進めることができた。 ・積ね要請学校園のそれぞれの特色に合わせて提案することができたが、時間をかけて丁寧に対応できていない学校園もあった。 ・オンライン講座では最初の3回までは不手際が多かったが対策を講じたことでスムーズに開催できた。 ・同行した巡回相談員とは訪問観察の前に情報を共有したり、後に連絡をとって対応について共通理解をはかったが十分とはいえないケースもあった。	・校内のすべての要請依頼に応えられる時間がなかった。地域支援にかかる時間との調整もあるが、個人の支援できる力量を向上させることも必要であり研鑽を積まなければならない。 ・地域支援事業に関わることができる時間を工夫して取り組みを考える必要がある。 ・受講者の研修意欲に応えるためコロナ禍で可能な受講方法を常に考える必要がある。 ・他の巡回相談員へは積極的にコミュニケーションをとる。	・伊丹市のセンター校として、しないの特別支援教育の充実に大きな役割を担ってくれている。コロナ禍でもオンライン講座を開くなど工夫していただきありがたい。今後も市内の特別支援教育を進める上で中心的な役割を担ってほしい。

自己評価の基準　A：8割以上達成できた。 B：6～8割達成できた。 C：4～6割達成できた。 D：0～4割達成できた。 G：評価するべきでない項目。

令和2(2020)年度　学校評価総括表　　伊丹市立伊丹特別支援学校

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	グラフ
学力の向上	一人ひとりの教育的ニーズに応じた弾力的な教育課程の編成 （教育課程）	（教育課程） 〇個別の教育支援計画や個別の指導計画を活用し、一人ひとりに応じた指導・支援の充実を図る。	〇個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、懇談で指導・支援の方向性について保護者と共有する。	〇「本人・保護者の願い」を踏まえて、指導・支援の方向性について保護者に説明したり、話し合ったりして、合意形成を図ることができる。	
	わかる授業の構築 （自立活動） （研究）	（自立活動） 〇相談を活用し、学部・学校全体で情報を共有して授業にいかす。	〇相談内容を明確にするため、相談カテゴリを設け、相談票の書き方や過去の相談内容を参照できるようにする。 〇クラスや学部等において助言内容を確認後、学校全体で回覧して情報を共有する。	〇各種相談を活用できる。 〇他児の相談内容を教育活動にいかす。	
		（研究） 「わかる・できる集団の授業づくり」をテーマに、全教員が主体的に研究に取り組み、授業作りに努める。	〇各学部の研究推進担当が中心になって学部やクラスの実態に応じて、研究の目的と方法を明確にして研究授業や公開授業を実施する。 〇それぞれの教員が研究授業や公開授業を通して、学んだことを活かして授業改善をする。	〇研究授業や公開授業の取組を通して、学んだことをそれぞれの授業の授業改善に活かす。	
	卒業後の進路や生活を見据え自立して社会に参加する力の育成 （キャリア教育） （進路）	（キャリア教育） 〇児童生徒の発達段階や発達課題を踏まえたキャリア教育の推進・充実を図る。	〇キャリア教育全体計画を踏まえて、キャリア教育の視点から教育活動を展開する。	〇キャリア教育全体計画の「キャリア教育で児童生徒に身に付けさせたい力」を踏まえて、授業の年間指導計画を作成できる。	
		（進路） 〇児童生徒の適正や希望等を把握し、実態に応じた進路指導・支援を行うための情報について理解する。	〇進路説明会で行う資料やガイドブック等を配付し、進路指導や福祉制度に関する情報提供を行う。 〇進路だよりを毎月発行し、情報を発信する。	〇児童生徒の個々の実態を把握し、適切な進路指導ができるように福祉制度について理解する。 〇児童生徒が通う福祉事業所の活動について把握する。	
豊かな心・健やかな体	豊かな人間関係の形成 （各学部） （いじめ）	（小学部） 〇日々の授業を通して児童の人間関係づくりの基礎を学ばせる。	〇学部全体やクラスを超えた学習集団等を適切に編成する。	〇それぞれの集団学習の中で、児童が他者と関わる力をつけられるような内容や場面を設定する。	
		（中学部） 〇人とのふれ合いを通し、コミュニケーションの力や相手を思いやる心を育てる。	〇校区交流や社会体験学習、日々の授業や学校行事の中で、多くの人と関わり合いを広げる。	〇学校の内外の多くの人と関わる機会を設け、生徒自身がコミュニケーション力を発揮し、相手とつながる体験をする。	
		（高等部） 〇人や社会と関わる中で、思いやりの心や責任感を育てる。	〇日々の学習や校外学習、職場体験実習などの活動で、多くの人と関わりを持つ。	〇校内外問わず、多くの人と関わり、自分の気持ちや考えを発信し、他者の考えを知る機会を多く設ける。	
	安心・安全な学校生活の推進 （校内保健） （医療的ケア） （危機管理）	（校内保健・医療的ケア） 〇児童生徒の実態に応じて、健康の保持・増進をはかると共に命を大切にする心を育てる。	〇個々の状況に応じた配慮及び行事に係る健康管理を行う。 〇児童生徒の健康に関する情報の共有方法を検討し、全職員で共通理解を図る。 〇医療的ケア安全委員会の会議内容を職員会議や回覧などで連絡する。	（校内保健） 〇校内における児童生徒の健康に関する情報共有、学校と医療の連携を図ることができる。 （医療的ケア） 〇疑問点を確認することができる。	
		（危機管理） 〇危機管理マニュアルを作成したり、各種訓練を行ったりして、生命や心身等に危害をもたらす事象を最小限に食い止めるための力を育てる。	〇様々な災害に対する防災教育を実施する。 〇集団での訓練を通して生命の安全について考える。 〇非常事態発生時の安全を確保する。	〇様々な防災教育を通して自他の生命や心身の安全について考え、行動することができる。 〇非常事態発生時の行動を知り、活動することができる。	
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信 （ICT活用推進） （各学部）	（ICT活用推進） 〇校内のICT機器やその活用方法、授業での取り組みについての情報を発信する。	〇ICT便りの発行や懇談等で、ICT機器やその活用方法について教師や保護者に情報を発信する。 〇各学部からICTを活用した授業の実践例を募り、その一部をICT便りやホームページ等で発信する。	〇校内研修やICT便りを読むことで、校内のICT機器の活用方法について知る。 〇ICT機器を活用した授業を実践したり、実践例を見ることで、ICT機器についての理解を深める。	
		（小学部） 〇積極的に授業の取り組みや児童の様子を家庭に伝える。	〇毎日連絡帳でそれぞれの児童の様子を伝える。 〇毎月学部通信を発行し、学部の児童の様子を伝える。	〇毎日連絡帳に授業や児童の様子を記入する。 〇月1回、学部全体の児童の様子を載せた学部通信を発行する。	
		（中学部） 〇積極的に学校からの情報を発信し、家庭に開かれた学校を目指す	〇校内の掲示板、日々の連絡帳や毎月発行の学部通信を通して、学校における学習内容等について、家庭に伝達し、共有する。	〇掲示板では、中学部全体の教育活動について発信する。連絡帳や学部通信では、各生徒の学習について、より具体的な内容の伝達をする。	
		（高等部） 〇積極的に授業の取り組み等を発信し、開かれた学校を目指す。	〇毎日連絡帳でそれぞれの生徒の様子を伝える。 〇毎月学部通信を発行し、ホームページも更新して学部の情報を発信する。	〇毎日連絡帳に授業の様子等を記入する。 〇月1回生徒の様子を載せた学部通信の発行とホームページの更新を行う。	
	一歩進んだセンター的機能の充実 （センター）	（センター） 〇校内教育支援委員会の運営及び、人材の育成につとめる。 〇特別支援教育における地域のセンター的機能の充実を図り、教育相談、巡回相談、学校園等コンサルテーションなど、各事業を円滑に実施する。	〇要請のあった授業への支援や研究等に参加する。 〇校内教育支援委員会の運営をする。 〇要請のあった学校園の支援体制に応じて段階的に学校園コンサルテーションを実施する。 〇特別支援教育実践講座の実施（7講座）運営をする。 〇伊丹市の巡回相談員として要請に応じて巡回相談を実施する。	〇要請のあった授業への支援や研究等に参加し、適切な対応をする。 〇校内教育支援委員会を適切に開催し進める。 〇要請のあった学校園の支援体制に応じて段階的に学校園コンサルテーションを実施する。 〇特別支援教育実践講座を新型コロナ感染対策を講じながら実施（7講座）する。 〇他校の巡回相談員と連携しながら適切な対応ができる。	